

国際システムダイナミクス学会日本支部
2005 年度 第 1 回 会員総会

開催期日：2005 年 4 月 2 日（土）

16 時 30 分～17 時 30 分

開催場所：学習院大学

JSD 会長 **森田 道也**

議事項目

議長：会長 森田道也

- 1．2004 年度決算報告：承認事項 会長
- 2．2004 年度事業報告：報告事項 事務局長
- 3．規約の改訂：承認事項 事務局長
- 4．2005 年度事業計画：承認事項 会長
- 5．2005 年度事業予算：承認事項 会長
- 6．その他

1 . 2004 年度収支決算書

(2004 年 1 月 1 日 ~ 2004 年 12 月 31 日)

下記の通り、国際システムダイナミクス学会日本支部 2004 年度収支決算をご報告いたします。

	2004年度予算案	2004年度決算額
収入の部		
前期繰越金	<u>1,393,623</u>	<u>1,393,623</u>
個人会費	700,000	319,000
賛助会費	100,000	50,000
出版物予約金	0	0
出版物売上	20,000	23,000
雑収入	50,000	<u>10,049</u>
当期収入合計	870,000	402,049
収入の部合計	<u>2,263,623</u>	<u>1,795,672</u>
支出の部		
通信費	70,000	11,410
資料印刷費	50,000	27,805
事務用品費	30,000	4,568
書籍代	0	0
講師料	50,000	65,000
講師交通費	40,000	0
交通費	30,000	5,390
雑費	15,000	11,864
2002年度未処理分	18,240	0
研究会地方開催補助費	70,000	25,000
研究分科会補助費	100,000	67,890
アルバイト謝金	50,000	30,000
学会誌印刷代	200,000	0
事務所賃貸料	<u>24,000</u>	<u>24,000</u>
当期支払い合計	747,240	272,927
次期繰越		
現金残高		35,059
預金残高		<u>1,484,186</u>
現預金合計	<u>1,516,383</u>	<u>1,519,245</u>
未払金(鈴木氏立替金)		-6,500
未収金(2人分会費)		10,000
支出の部合計	<u>2,263,623</u>	<u>1,795,672</u>

以上の通り報告いたします。

2005 年 月 日 理事(総務担当) 松本憲洋

上記の会計について監査の結果、適正であると認めます。

2004 年 月 日 監事 松本安生

2004 年 月 日 監事 明神 知

2 . 2004 年度事業報告

1 . SD 研究会 :補足資料参照

- (1) 関東地区 計画 :6回を予定する。
実績 :予定通り実施した。
- (2) 関東以外 計画 :2回を予定する。
実績 :1回実施した。

2 . 学会誌の発行 :補足資料参照

計画 :JSD 学会誌4号を2004年5月末日発行する。
(特集記事は日本経済モデル研究分科会担当)
実績 :2005年3月に発行した。

計画 :翌年号の準備:論文募集 2004年11月(発行予定 2005年3月末日)
実績 :未了

3 . 研究分科会の活動促進

計画 :2003年度の6分科会を全て解散し、新たな提案に基づき開設する。
実績 :解散後2分科会が継続開設された。

4 . フォーラム/シンポジウムの開催 :補足資料参照

計画 :第4回新世紀実学フォーラム 2004年5月予定 日本経済モデル研究分科会担当
実績 :2004年10月23日に開催した。

計画 :第5回新世紀実学フォーラム開催準備

実績 :新世紀の名前が色あせたために第4回で継続フォーラムは終了することを決定。

5 . System Dynamics Society などでの国際交流の促進 :補足資料参照

計画 :The 22st International conference of the System Dynamics Society
July 25 - 29, 2004 Oxford, England

実績 :国際担当理事ほか数名が参加し、9月のJSD研究会で報告した。

6 . SD の普及のための Web 公開・講習会など :補足資料参照

実績 :2004年1月31日 2004年度総会記念講演会
2004年10月23日 第4回新世紀実学フォーラム
「SDによる日本経済モデルの検証」
2004年12月3日 SDを紹介する会
「最新のSDツールの可能性」

7 . 運営体制

計画 :理事会メンバーが、本部研究会、地方研究会、国際交流、学会誌編集、広報、
総務・事務局を特命分担して担当し、年間の運営にあたる。
幹事が、ML管理、会員事務、会計事務、研究会支援に関する業務を事務局長の下で
分担して担当する。

事務局は当面、有限会社ポウジ内に仮設置する。

実績 :形式的には計画通りであったが、実質的には事務局も理事会も業務が停滞した。

以上

3 . 規約の改訂

3 . 1 名称の変更

英文名称に沿って、頭部の“国際”を除く。

変更条項：第1条、第2条

3 . 2 会員制度の改訂

日本支部設立時の建前として、SDS に参加している日本人は日本支部へ所属することを前提にしていたのかもしれないが、現状では1 / 3 程度が日本支部には参加していない。

今年度開催される予定の中国でのカンファレンスなどについては、本会が連絡相手となっているが、このままではその人たちに情報が届かないことになる。

その方たちと情報を共有して、さらに、SD の普及と国際交流の促進を追及する体制を検討する。

会員構成を一般会員、学生会員、賛助会員、会友とする。

	一般会員	学生会員	賛助会員	会友
役員被選挙権		×		×
選挙権				×
承認権				
JSD の ML の利用				
無料参加・配布				×

変更条項：第3条、第8条

3 . 3 会計年度の改訂

本会の会計年度は、SDS に倣って1月～12月となっているが、日本の多くの組織の会計年度は4月～翌年3月がほとんどのために、会費の支払い等で不自由を感じる会員が多い。上記に対処するために、会計年度を4月～翌年3月に変更する。

ただし、本年度に限って2005年1月1日から2006年3月31日を2005年度とする。

変更条例：第14条、付則

3 . 5 語句の改訂

第4条

第7条

3.6 規約改訂案の対比

国際システムダイナミクス学会日本支部 規約 システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

第1条 (名称)

本支部は国際システムダイナミクス学会日本支部と称する。
本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本支部は国際システムダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。
本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。
なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システムダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システムダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システムダイナミクスに関する調査研究
- (4) システムダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本支部は会員と準会員に区分される一般会員、学生会員および賛助会員をもって構成する。
- 2 会員は国際システムダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員で、本支部の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 準会員および学生会員は前項以外のもので、本支部の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 4 賛助会員は本支部の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。なお、賛助会員は1口につき3名分の資料提供を受け、研究会活動に参加登録できる。
- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものをいう。

第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって日本支部の会長に申し出なければならない。
- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

第5条 (会費)

本支部の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。
本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は日本支部の会長に届け出て退会することができる。
- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

第7条 (役員)

本支部に次の役員を置く。

本会に次の役員を置く。

会長 (President)	1名
副会長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Secretary)	1名
理事 (総務担当: Executive Director)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ会員選挙によって選出する。選挙細則は別途定める。
- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。

選挙細則は別途定める。

- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員中より出席者の過半数の賛成を得て選任する。
- 2 **副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。**

第9条（理事会）

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年の総会時および会長がその必要を認めたととき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本支部の活動を統括する。
- 2 **理事会は、本会の活動を統括する。**
- 3 理事会は、必要に応じて日本支部の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 3 **理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。**
- 4 会長が必要と認めたとときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。
- 7 理事会は、日本支部の活動を支援、指導いただくために顧問会議を設置することができる。
- ~~7 理事会は、日本支部の活動を支援、指導いただくために顧問会議を設置することができる。~~

第10条（役員の任期）

役員の任期は2年とする。

第11条（顧問）

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条（総会）

総会は年1回以上開催し、役員の選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

第13条（定足数）

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員の2分の1以上とする。

第14条（会計年度）

会計年度は毎年1月1日より12月31日にいたる期間とする。

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

第15条（事務局）

1 本支部の事務局を下記に置く。

1 **本会の事務局を下記に置く。**

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12-104 藤和半蔵門コープ 1F POSY Corp. 内

国際システムダイナミックス学会 日本支部事務局

国際システム・ダイナミックス学会日本支部事務局

Tel & Fax 03-3512-5358

2 事務局は理事（総務担当）と幹事で構成し、理事（総務担当）が事務局長を務める。

付 則 1 第10条の規定にかかわらず、支部発足時の役員の任期は1991年12月31日までとする。

2 本内規は1990年9月22日より発効する。

3 1991年7月22日一部改正

4 1992年2月17日一部改正

5 1995年3月13日一部改正

6 1996年3月29日一部改正

7 2003年2月12日一部改正

8 2004年1月31日一部改正

9 **2005年4月2日一部改正**

10 **第14条の規定にかかわらず、2005年度会計年度は、2005年1月1日から2006年3月31日までとする。**

国際システムダイナミクス学会日本支部 会長選出に関する細則
国際システム・ダイナミクス学会日本支部 会長選出に関する細則

- 第1条 この細則は「国際システムダイナミクス学会日本支部規約」第8条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第2条 この細則は「国際システム・ダイナミクス学会日本支部規約」第8条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第3条
- 1 会長の選出は次の各項による。
 - 2 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末の45日以前に、14日間の期間を設定して求める。
 - 3 5名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。
推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、(代表推薦人マーク)
被推薦人：氏名、住所、所属、職位/資格、e-mail、電話、専門、略歴、
JSD 会長としての目標・抱負(400字以内)
 - 4 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の14日以前に
7日間の期間を設定して実施する。
 - 5 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第1位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
 - 6 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

以上

3.7 規約改定案

システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

第1条 (名称)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものを言う。

第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

第5条 (会費)

本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

会長 (President)	1名
副会長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Executive Director)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。
選挙細則は別途定める。
- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。

第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年の総会時および会長がその必要を認めるとき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本会の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 会長が必要と認めるときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。

第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

第11条 (顧問)

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員を選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員2分の1以上とする。

第14条 (会計年度)

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

第15条 (事務局)

- 1 本会の事務局を下記に置く。
〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12-104 藤和半蔵門コープ 1F POSY Corp. 内
国際システム・ダイナミクス学会日本支部事務局
Tel & Fax 03-3512-5358
 - 2 事務局は理事（総務担当）と幹事で構成し、理事（総務担当）が事務局長を務める。
- 付 則
- 1 第 10 条の規定にかかわらず、支部発足時の役員の任期は 1991 年 12 月 31 日までとする。
 - 2 本内規は 1990 年 9 月 22 日より発効する。
 - 3 1991 年 7 月 22 日一部改正 4 1992 年 2 月 17 日一部改正 5 1995 年 3 月 13 日一部改正
 - 6 1996 年 3 月 29 日一部改正 7 2003 年 2 月 12 日一部改正 8 2004 年 1 月 31 日一部改正
 - 9 2005 年 4 月 2 日一部改正
 - 10 第 14 条の規定にかかわらず、2005 年度会計年度は、2005 年 1 月 1 日から 2006 年 3 月 31 日までとする。

システム・ダイナミクス学会日本支部 会長選出に関する細則

第4条 この細則は「システム・ダイナミクス学会日本支部規約」第8条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。

- 第5条
- 1 会長の選出は次の各項による。
 - 2 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末の45日以前に、14日間の期間を設定して求める。
 - 3 5名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。
推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、(代表推薦人マーク)
被推薦人：氏名、住所、所属、職位/資格、e-mail、電話、専門、略歴、
JSD会長としての目標・抱負(400字以内)
 - 4 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の14日以前に7日間の期間を設定して実施する。
 - 5 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第1位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
 - 6 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

以上

添付資料 : 研究分科会の設立と運営に関する内規

1. 研究分科会が発足するまでのプロセス
 - 提案者：研究分科会の設立提案をナンデモ・メールで発信
 - 全会員：ナンデモ・メールによる意見交換とメンバー募集
 - 提案者：研究分科会の設立提案書を事務局までメールで送付
 - 支部長による承認
 - 研究分科会活動開始
2. 諸規定
 - (1) 設立条件
 - 5名以上の会員をメンバーとして、代表者が提案し、その目的がJSDの活動主旨に沿い、JSDの研究・普及活動を活発化させる可能性が認められるとき、支部長は研究分科会の設立を承認する。
 - (2) 参加資格
 - 研究分科会の活動に貢献するJSD会員は、いかなる研究分科会にも参加できる。
 - (3) 研究分科会の組織と運営
 - 分科会には主査と幹事をおき、事務局が設定した分科会専用のMLの管理も自主的に行う。
 - (4) 研究分科会の権利と義務
 - 分科会メンバーの変更があった場合には、速やかに事務局に届け出る。
 - 研究報告を研究会で発表するよう担当理事に求められた場合には指示に従う。
 - 少なくとも年1回以上はJSD研究会等で発表する。
 - 会議場、コピー代など研究分科会開催に必要な経費は、領収書とともに担当幹事に申請すれば支払を受けることができる。ただし、各研究分科会ごとの上限を、2004年度は20,000円とする。
3. 研究分科会の設立申請様式
 - メンバーリストを入力したExcelファイルと下記の申請内容を事務局メール宛に送付して申請する。
 - 事務局 : jsd-office@yahooogroups.jp

分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日 :

申請者 :

名称 : 研究内容が推測できる研究分科会の名前

共同申請者 : 添付するExcelファイルに5名以上のJSD会員名を記載

趣旨 : 研究分科会を立ち上げる背景と狙い、参加メンバー利得、期待できる成果、等について具体的に記載

研究内容 : 研究対象、研究構成、研究内容、研究計画、等について具体的に記載

研究体制 : 研究組織、研究実施方法、打ち合わせ頻度・形式、作業分担方法、等についてできるだけ具体的に記載

添付するメンバーリストのExcelファイル

代表世話人を含めて下記情報を記載

名前, e-mailアドレス, 電話番号, 所属機関名, 連絡住所

以上

4 . 2005 年度事業計画案

(2005 年 1 月 1 日 ~ 2006 年 3 月 31 日)

1 . SD 研究会 担当(3):末武・森 (4):山内・和泉

(3) 関東地区 : 5 回を予定する。

(4) 関東以外 : 1 回を予定する。

2 . 学会誌の発行 担当:三藤・町田

発行号数 : 5 号

発行時期 : 2006 年 3 月上旬

特集等 : 現在検討中(いずれかの研究分科会に依頼の予定)

翌年号の準備等 : 2006 年 2 月までに検討(発行予定 2007 年 1 月)

3 . 研究分科会の活動促進 担当:全役員

2005 年度に研究分科会が 3 つ以上活動していることを目指す。

4 . フォーラム/シンポジウムの開催 担当:全役員

年次研究大会の開催について検討し、実施する場合には、年度内に初回を開催することを目指す。

5 . System Dynamics Society などでの国際交流の促進 担当:内野

(1) 第 23 回国際 SD 会議

2005 年 7 月 19 日から 21 日にボストンで開催される。

既に、発表申込は締め切られているが、会議参加に関する情報は下記 Web を参照のこと。

<http://www.systemdynamics.org/conf2005/index.htm>

例年通りの発表者と参加者の確保を目標とする。

(2) 上海国際会議

“The Sustainable Development of Asia Pacific” をテーマにした国際会議が、2005 年 11 月 4 日から 6 日に上海の Tongji University で開催される。正式名称は “Multi-Conference on the applications of System Dynamics and the Disciplines of Management” で、発表の受付は 4 月 12 日から 7 月 22 日までだが、詳細については内野までお問い合わせのこと。

上記の会議を通じてアジア太平洋地域の SD 支部、会員の交流促進について話し合われる見込みであり、日本支部はスポンサーとして支援する。したがって、支部会員へ会議を案内し、支部メンバからの発表者、参加者の確保を目指す。

6 . SD の普及のための Web 公開・講習会など 担当:黒野・松本

HP の内容の充実に努め、SD の普及に貢献する。

SD の現状を紹介する催しを 2 回計画し実施する。

7 . 運営体制 担当:松本憲洋

JSD 理事会は自らのミッションを下記と定め、JSD の運営に取り組みます。

「JSD 理事会は、システム・ダイナミクスに関して会員に役立つ事業に取り組み、システム・ダイナミクスの普及を図ることにより、日本社会に貢献することを目指します」

以上

5 . 2005 年度事業予算案

(2005 年 1 月 1 日 ~ 2006 年 3 月 31 日)

	2004年度	2005年度
収入の部		
前期繰越金	<u>1,393,623</u>	<u>1,516,383</u>
個人会費	700,000	650,000
賛助会費	100,000	100,000
出版物売上	20,000	30,000
雑収入	<u>50,000</u>	<u>10,000</u>
当期収入合計	<u>870,000</u>	<u>790,000</u>
収入の部合計	<u>2,263,623</u>	<u>2,306,383</u>
支出の部		
通信費	70,000	100,000
印刷費	50,000	50,000
事務用品費	30,000	10,000
講師謝金	50,000	40,000
交通費	40,000	10,000
雑費	30,000	30,000
本部研究会補助費	15,000	70,000
地方研究会補助費	70,000	50,000
研究分科会補助費	100,000	150,000
アルバイト謝金	50,000	50,000
学会誌印刷費	200,000	400,000
前年度未処理分	18,240	6,500
事務所賃貸料	<u>24,000</u>	<u>24,000</u>
当期支払合計	<u>747,240</u>	<u>990,500</u>
次期繰り越し	<u>1,516,383</u>	<u>1,315,883</u>
現金残高		
預金残高		
未払い金		
支出の部合計	<u>2,263,623</u>	<u>2,306,383</u>

以上

参考 : 2004 ~ 2005 年度 役員

会長	森田道也(学習院大学)
副会長	山内昭(地方研究会担当 尾道大学) 末武透(本部研究会担当 あずさ監査法人)
理事	内野明(国際交流担当 専修大学) 松本憲洋(総務担当・事務局長 POSY Corp.) 和泉潤(地方研究会担当 名古屋産業大学) 森義仁(本部研究会担当 お茶の水女子大学) 黒野宏則(広報担当 広島県立大学) 三藤利雄(学会誌編集担当 県立長崎シーボルト大学) 町田欣弥(学会誌編集担当 駿河台大学)
監事	松本安生(神奈川大学) 明神知(株式会社 オージス総研)
幹事	上原拓郎(ML 管理 中央大学) 村上祐介(会計事務・研究会開催支援 L.E.K.)
顧問	島田俊郎先生 坂倉省吾先生 亀山三郎先生 小林秀徳先生

2004年度事業報告補足資料 1

JSD研究会開催報告

研究会名称	3月JSD研究会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/3/27 13:30-16:00	1	新部昭夫	東京農業大学	農業生産におけるモデリングとSDの利用
場所	学習院大学				
出席者数	12名				
担当役員・幹事	末武・鈴木				

研究会名称	5月JSD研究会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/5/15 13:00-16:00	1	末武透	あずさ監査法人	セキュリティ(安全)の概要
場所	学習院大学	2	猪上 謙吾	オージス総研	情報セキュリティの最新動向
出席者数	13名	3	末武透	あずさ監査法人	SDとセキュリティ研究
担当役員・幹事	末武・鈴木				

研究会名称	JSD研究会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/7/10	1	落合以臣	ジョングエルコンサルティング	「環境ビジネスと経営」
場所	お茶の水女子大学	2	蓮尾克彦	株式会社テブコシステムズ	経営判断のツールとしてのSD
出席者数	9名				
担当役員・幹事	森・村上				

研究会名称	9月JSD研究会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/9/11 13:30-16:00	1	内野明 末武透他	専修大学他	2004年度システム・ダイナミクス学会国際会議出席の報告
場所	学習院大学				
出席者数	23名				
担当役員・幹事	末武・鈴木				

研究会名称	11月JSD研究会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/11/20	1	Grischa Meyer	フォルクスワーゲン	Model Draft of Tax Incentives in Japan
場所	お茶の水女子大学	2	田宮兵衛	お茶の水女子大学	ヒートアイランドに関するモデリングに向けて
出席者数	8名				
担当役員・幹事	森・村上				

研究会名称	12月JSD研究会(名古屋)	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/12/3 13:30-16:50	1	林 良嗣	名古屋大学	欧州・日本・アジアの都市・国土計画の重要課題とSDへの期待
場所	名古屋大学	2	岡村実奈	名古屋大学	SDを用いた政策分析ツール開発への取組
出席者数	20名	3	小池昇司	リコーエレメックス(株)	SDによるビジネスモデルの施策検証
担当役員・幹事	和泉		近藤史人	日本HP	非定量的要因のモデリングは可能か

研究会名称	1月JSD研究会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2005/2/12	1	中村香	お茶の水女子大学	ピータ・センゲの考え方と実践について
場所	お茶の水女子大学	2	飯島亜衣	上智大学	科学技術とジェンダー～EUの女性科学技術者政策
出席者数	5名				
担当役員・幹事	森・村上				

2004年度事業報告補足資料 3

研究分科会報告 ビジネス・プロセス・モデル研究分科会

主査 森田道也

幹事 松本憲洋

メンバー 紅林倫太郎、山口庸一、小池昇司、明神知、水内啓介、渡辺恵、大澤光、落合以臣、蓮尾克彦、近藤史人、山田善靖、内山章、伊藤武志、榎本哲也、野田英志、田中恒行、伊藤良之、河野誠二

活動報告 (1)研究分科会の成果 :参加メンバーは戦略志向の組織について学習すると共に、所属する組織のサプライチェーンについて分析し、合わせて、システム・ダイナミクス・モデルによる仮想経営の有効性とその適用方法に関する知識を修得した。
(2)研究分科会の開催 :毎月1回夕方に研究会を開催した。3回にわたり森田道也主査がサプライチェーンに関する講座を解説した。その後はメンバーが各業界ごとのSCに關係するテーマ研究を発表し、詳細な討論により分析を進めた。
(3)成果の報告 :取り上げたテーマを中心に、2005年度JSD総会記念講演会で発表する。

期日・時刻	2004/4/21 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	森田道也	学習院大学	サプライチェーンに関する講座(その1)
出席者数	13名				
期日・時刻	2004/5/26 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	森田道也	学習院大学	サプライチェーンに関する講座(その2)
出席者数	17名				
期日・時刻	2004/6/30 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	森田道也	学習院大学	サプライチェーンに関する講座(その3)
出席者数	17名				
期日・時刻	2004/7/21 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	福澤賢治	株式会社富士通総研	自動車業界におけるSCM導入のポイントとその効果
出席者数	11名				
期日・時刻	2004/9/8 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	明神 知	オーヂス総研	システムインテグレーションサービス業の構造について
出席者数	9名	2	水内啓介	IBM	SI業界における人材の供給プロセス
期日・時刻	2004/10/27 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	小池昇司	リコーエレメックス株式会社	SDによるビジネスモデルの施策検証事例
出席者数	11名				
期日・時刻	2004/11/18 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	野田英志	森林総合研究所	日本の森林・建築物をめぐる木材・炭素循環の実態
出席者数	8名				
期日・時刻	2004/12/9 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	渡辺 恵	三木産業株式会社	中堅化学品専門商社のサプライ活動の実態と解決課題
出席者数	7名				
期日・時刻	2005/1/12 18:30-20:45	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学2号館13階第3会議室	1	紅林倫太郎	日本電気株式会社	デマンド・プル型の産業における製造業のダイナミクスモデル
出席者数	7名				

研究分科会名称 日本経済モデル研究分科会
 主査 小林秀徳
 幹事 松本憲洋
 メンバー 内山 章、今別府忍、岩澤嘉則、辻 稔郎

活動報告 (1)研究分科会の成果：計量経済学モデルとSDによる経済モデルを比較することで、経済モデルについて学習した。
 さらに、最近の15年間で大きく変化した計量経済学について学習し、SDとの接合について検討を進めた。
 (2)研究分科会の開催：メンバーが少なかったのと、メンバーの一人が九州在住だったため、東京に出張の折をつかまえて、2年間で15回程度の勉強会を開催した。
 (3)成果の報告：第4回新世紀実学フォーラム「SDによる日本経済モデルの検証」を開催し、経済学者2名の講演に続いて、3名がSDによる経済モデルについて講演した。
 また、JSD学会誌第4号において、「日本経済モデル特集」を提案し採用され、経済学者2名の論文とともに、2編の講演論文を掲載した。

2004年度事業報告補足資料 4・6

SD普及活動報告

名称	2004年度総会記念講演会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/1/31 13:00-16:00	1	落合以臣	株式会社ジョンケルコンサルティング	倫理観の向上とリスクマネジメント
場所	中央大学後楽園キャンパス	2	岩田規久男	学習院大学	日本再生に「痛み」みはいらぬ
出席者数	24名				
担当役員・幹事	松本憲洋・上原、飛田				

名称	第4回新世紀実学経営フォーラムSDによる日本経済モデルの検証	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/10/23 13:00-17:00	1	岩田規久男 今別府忍 (代講)	学習院大学 NTTコムウェア	日本再生に「痛み」みはいらぬ
場所	中央大学後楽園キャンパス	2	岡田 靖	学習院大学	デフレ不況と旧世代計量経済モデルの限界
出席者数	42名	3	松本憲洋	POSY Corp.	新古典派マクロ経済学に基づく動学モデルへのSD適用の試み
担当役員・幹事	小林主査・松本憲洋	4	内山 章	九州電力	SDによるバブル期以降の経済動向の可視化
		5	小林秀徳	中央大学	21世紀日本経済の展望

名称	SDを紹介する会	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2004/12/3 10:30-12:30	1	松本憲洋	POSY Corp.	最新のSDツールの可能性について
場所	名古屋大学 環境総合館3階講義室3				
出席者数	16名				
担当役員・幹事	松本憲洋				

2004 年度事業報告補足 2 学会誌の発行

学会誌『システムダイナミクス』4号を2005年3月に発行した。日本経済モデル研究分科会(主査:小林秀徳、幹事:松本憲洋)が開催した第4回新世紀実学経営フォーラムでの報告等に基づいた特集記事と講演論文一通、ならびに書評を掲載している。目次は次のとおりである。

特集

日本経済モデル研究分科会「SDによる日本経済モデルの検証」	1
日本再生に「痛み」はいらない ……………	岩田規久男 2
デフレ不況と旧世代マクロ計量モデルの限界 経済動学の新しいアプローチとデフレ不況の経験…	岡田 靖 21
SDによるバブル期以降の経済動向の可視化 ……	内山 章 29
21世紀日本経済の展望 ……………	小林 秀徳 38

講演論文

プロジェクトを通しての倫理観の向上とリスクマネジメント ……………	落合 以臣 52
--------------------------------------	----------

書評

アラン・アトキソン(枝廣 淳子監訳)『カサンドラのジレンマ』 Alan AtKisson (1999), <i>Believing Cassandra</i> ……	三藤 利雄 64
---	----------

学会だより

国際システムダイナミクス学会日本支部規約	65
JSD 入会のご案内と入会手続	67
メーリング・リストの使用手順	68

2004 年度事業報告補足 5 国際交流の促進

1. ISDC2004:

第22回国際SD会議は2004年7月25日から29日に、英国オックスフォード大学 Keble Collegeにて開催されました。初日は大学院セッション(Ph.D. Colloquium)と理事会(Policy Council Meeting)が、26日から28日が通常のセッション、29日にWork Shopが行われました。

詳細はWebをご確認下さい。<http://www.systemdynamics.org/conf2004/index.htm>

会議中韓国支部の代表より日本、中国、韓国、ニュージーランドを含む環太平洋支部設立およびアジアでの国際的な活動についての可能性について打診されました。日中韓においては国際学会会員の他、支部会員をようしているため、当面はそれぞれの支部の独立性を保ったまま、環太平洋支部の可能性を探っていくことを検討しようということになりました。(内野)

2 . 2005.1.31 理事会(Policy Council Meeting) :

オブザーバーとして出席しました。2007 年の国際 SD 会議は、SD 誕生 50 周年を記念するものとしてボストンで開催することとなりました。2005 年に続いての開催となるので開催地の偏りについて議論ができました。2006 年ヨーロッパでの開催については、前回の理事会で3カ国4カ所の候補地から投票でオランダが選択されたわけですが、2005 年については米国内ならびにその周辺で立候補する開催地がなくて、ボストンで引き受けたためボストンが続くことになったとのことでした。ここ数回の国際会議はすべて成功裡に終わり、会議からの収入が学会を支える大きな柱になっていますが、舞台裏は必ずしも万全ではないと感じました。当日の議事の詳細は Web をご確認ください。(内野)

<http://www.systemdynamics.org/PolicyCouncil/PCmin050131.htm>

以上